

3 採卵鶏農場における *Mycoplasma gallisepticum* の関与が疑われた一症例

山形県庄内家畜保健衛生所 ○相澤空見子・佐々木志穂 ほか

【はじめに】

採卵鶏農場（飼養羽数 48,000 羽、開放成鶏舎 4 棟、鶏種ジュリア）において、*Mycoplasma gallisepticum*（以下 MG）の関与が疑われる呼吸器症状、産卵低下が認められた。今回、その概要について報告する。

【発生経過】

当該農場では、中雛導入後、育成舎にて伝染性気管支炎（以下 IB）、MG を含む 5 種混合不活化ワクチン及び単味の IB（4-91 株、MA-5 株）予防ワクチン（以下 IB ワクチン）を接種し、140 日齢で成鶏舎へ導入。平成 26 年 10 月、A 鶏舎で異常呼吸音、産卵低下を認め、農場の管理獣医師が IB を疑い、IB ワクチン（MA-5 株）の追加接種を検討した。平成 27 年 2 月、D 鶏舎（11,700 羽、320 日齢）において異常呼吸音、産卵低下を認めた（IB ワクチンを追加接種済み）。同時期、B 鶏舎（11,900 羽、242 日齢）においても同様な症状を認めた（IB ワクチン追加未接種）。

【材料および方法】

B 鶏舎（242 日齢）および D 鶏舎（347 日齢）の発症鶏、生体各 2 羽（合計 4 羽）について、剖検、細菌学的検査、ウイルス学的検査、病理学的検査を実施した。また、同居鶏各 5 羽の気管スワブを用いて、細菌学的検査、ウイルス学的検査を行った。

【検査成績】

剖検所見では、4 羽中 1 羽の気管および鼻腔内に、粘液の貯留を認めた。細菌検査では、4 羽全ての気管より MG 遺伝子を認め、分離培養検査で MG（生菌数 101~104CCU/ml）を分離した。また、同居鶏の気管スワブより MG 遺伝子を認めた。病理組織学的検査では、4 羽中 1 羽の肺の粘膜下織にリンパ球浸潤を認めた。また、検査に供した 1 羽の鼻腔及び気管粘膜固有層に単核性細胞のび慢性浸潤を伴う粘膜の肥厚を認め、抗 MG ウサギ血清を用いた免疫組織学的検査で、気管粘膜上皮表面に陽性反応を認めた。

なお、ウイルス学的検査では、呼吸器関連ウイルスの分離検査および遺伝子検査はすべて陰性であった。

【考察】

本症例は、MG の関与が疑われた呼吸器症状、産卵低下と推察された。冬期間にかけて発症が認められたことから鶏舎の換気不良も要因の一つと考えられた。今後、地域での MG 分離状況を注視し、症例の積み重ねが必要。当該農場では、MG 予防ワクチンの接種方法について見直しを行い、当所では今後も経過観察予定。